

【生薬名】薄荷 *MENTHAE HERBA*

【起源植物】ハッカ *Mentha arvensis var. piperascens*

【科名】 シソ科 *Labiatae*



【別名】ニホンハッカ(りょうび、しゅうび)、セイヨウハッカとがある

【薬用部分】地上部全草

【主成分】L-メントール

【薬性】気味は辛涼、帰経は肺肝に属す

【効能】●疏散風熱・清利咽喉・透疹

●漢方では鎮静、冷え性、精神不安、鎮静、消炎につかう

●健胃や腹が張ったり、気分が悪いときには熱湯を注いで飲む

●頭痛、肩こり、神経痛に生葉を揉んでつけると清涼感がある

●知覚神経末梢を麻痺させるので外用すると止痛、止痒に効く

●浴剤として使えば気分がすがすがしくなり、頭がさえる

●

●

【出典】●療傷風寒軽証、清口气、洗漆瘡。(一本堂薬選)

●薄荷 味辛、最も頭目を清め、風を祛り、痰を化し、骨蒸宜しく服すべし。(薬性歌)

●

【備考】●薄荷は能く諸薬を導いて営衛に入るもので、能く風寒を发散させ、また頭頂、皮膚の風熱の邪を发散させ、気分の鬱滞を疎解する。

●手太陰、足厥陰の薬物で、頭痛、頭風、眼目、咽喉、口歯の諸病、小児の驚熱、および瘰癧、瘡疥の要薬とする。

●八新のうちの一つ

【処方例】●加味逍遥散、荊芥連翹湯、柴胡清肝湯、清上防風湯、防風通聖散、滋陰至宝湯、川芎茶調散